

レプトスピラ症の発生動向【沖縄県：2006年～2022年】

2023年7月12日現在（2022年の数値は暫定値）

感染症発生動向調査において、2006～2022年^{*}に診断され、届出されたレプトスピラ症の情報を還元します。

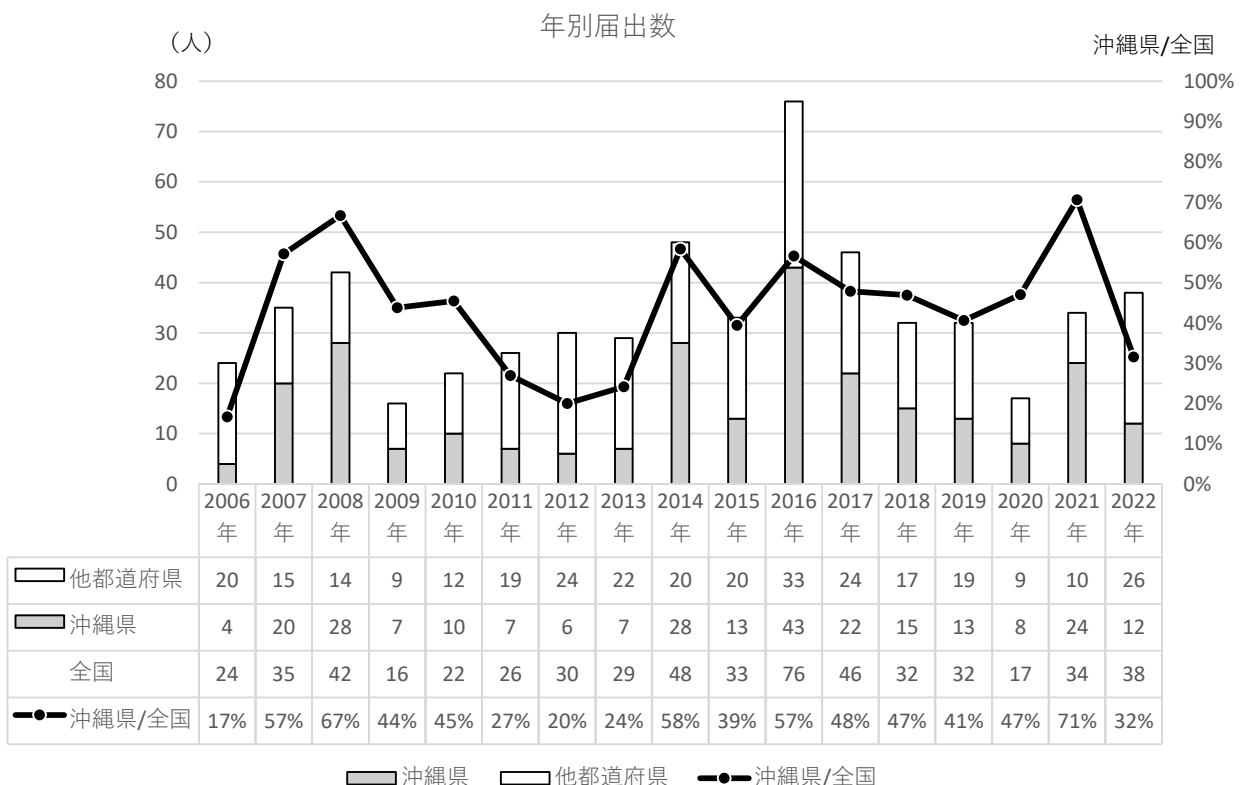
※疫学週によります。具体的な集計対象期間は下表のとおりで、診断日を基に集計しました。

所属年	集計対象期間
2006年	2006年1月2日 ～ 2006年12月31日
2007年	2007年1月1日 ～ 2007年12月30日
2008年	2007年12月31日 ～ 2008年12月28日
*2009年	2008年12月29日 ～ 2010年1月3日
2010年	2010年1月4日 ～ 2011年1月2日
2011年	2011年1月3日 ～ 2012年1月1日
2012年	2012年1月2日 ～ 2012年12月30日
2013年	2012年12月31日 ～ 2013年12月29日
2014年	2013年12月30日 ～ 2014年12月28日
*2015年	2014年12月29日 ～ 2016年1月3日
2016年	2016年1月4日 ～ 2017年1月1日
2017年	2017年1月2日 ～ 2017年12月31日
2018年	2018年1月1日 ～ 2018年12月30日
2019年	2018年12月31日 ～ 2019年12月29日
*2020年	2019年12月30日 ～ 2021年1月3日
2021年	2021年1月4日 ～ 2022年1月2日
2022年	2022年1月3日 ～ 2023年1月1日

*2009年、2015年および2020年は53週間、その他の年は52週間となっています。

(1) 届出数の推移（沖縄県・全国）

2006年～2022年の沖縄県における届出数は267人で、年間4～43人で推移していました。
 2006年～2022年の全国における届出数は580人で、年間16～76人で推移していました。
 各年における全国に対する沖縄県の割合は17～71%で推移していました。



(2) 発生（診断）週別届出数（2006年～2022年沖縄県・全国）

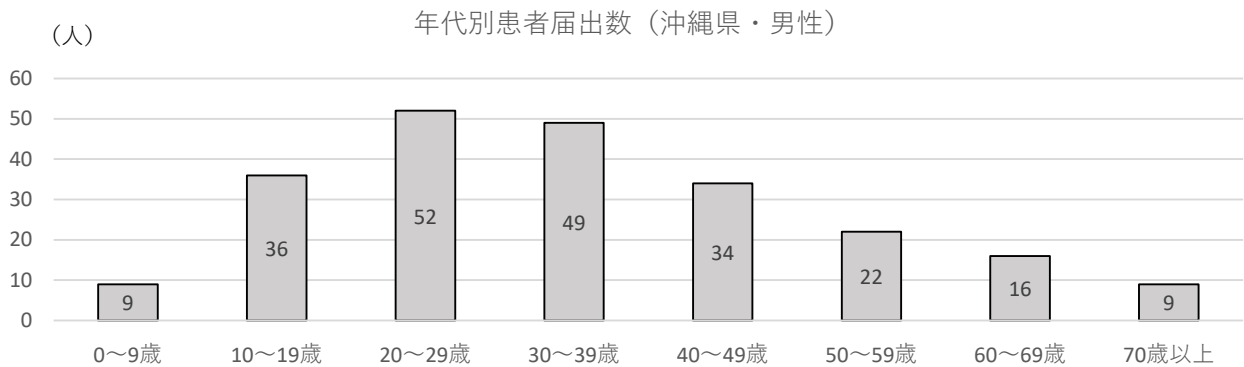
沖縄県では年の後半にレプトスピラ症の発生が集中しており、全国でも同様の傾向がみられました。最も多くの発生があったのは沖縄県、全国ともに第37週でした。



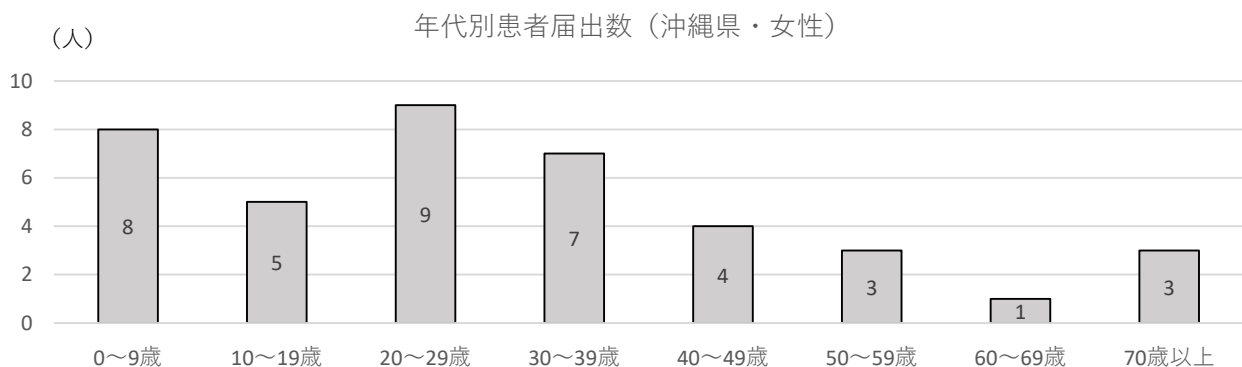
(3) 性別・年代別届出数（2006年～2022年沖縄県）

届出された267人中、男性は227人(85%)、女性は40人(15%)でした。

男性では20～29歳が52人（23%）と最も多く、30～39歳が49人（21%）、10～19歳が36人（15%）と続きました。



女性では20～29歳が9人（23%）と最も多く、0～9歳が8人（20%）、30～39歳が7人（18%）と続きました。

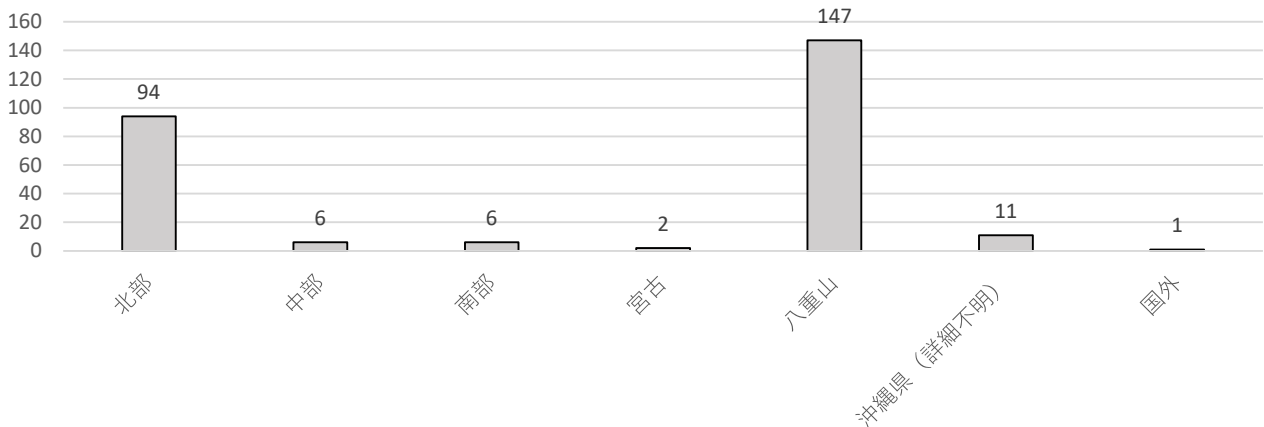


(4) 感染地域（推定含む）所管保健所別届出数（2006年～2022年沖縄県）

北部と八重山が多く、全体の90%を占めていました。

県外での感染としては国外を推定感染地域とする報告が1件ありました。

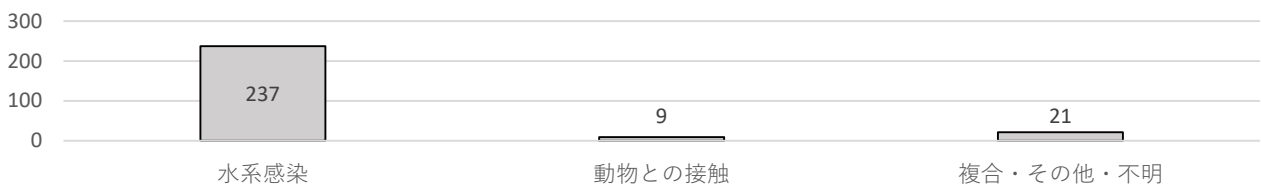
感染地域（推定含む）所管保健所別届出数



(5) 感染経路（推定含む）別届出数（2006年～2022年沖縄県）

主な感染経路（推定含む）は水系感染で、全体の87%を占めていました。

感染経路（推定含む）



(6) 症状ありの割合（2006年～2022年沖縄県）

発熱（99%）が最も高く、筋肉痛（68%）、結膜充血（62%）、蛋白尿（33%）、腎不全（30%）、黄疸（22%）と続き、出血症状は1%でした。

その他の症状としては頭痛、嘔吐、関節痛、下痢、肝機能障害などの記載がありました。

症状ありの割合

n=267

